

問1 飛鳥時代の国際情勢について学習している生徒が、「大化の改新が行われたころの大陸では、それまでの隋に代わって新しい王朝が成立し、周辺諸国を攻撃するなどして東アジアに緊張をもたらしていた」と説明しています。この文中の、隋に代わって成立した王朝の名称として正しいものはどれですか。（2020年 岡山公立入試 類似）

1. 高句麗 2. 新羅 3. 唐 4. 宋

問2 7世紀後半、日本（倭）は滅亡した百済を復興させるために朝鮮半島へ大軍を送りましたが、唐と新羅の連合軍に大敗しました。この戦いを何といいますか。（2022年 静岡公立入試 類似）

1. 白村江の戦い 2. 壬申の乱 3. 刀伊の入寇 4. 元寇

問3 663年の白村江の戦いにおいて、倭（日本）は百済の復興を支援しましたが、唐・新羅の連合軍に大敗を喫しました。この敗北を受け、大宰府周辺の守りを固めるために佐賀県に築かれた「基肄城（きいじょう）」などの山城には、どのような背景や目的がありましたか。（2019年 佐賀公立入試 類似）

1. 唐や新羅による日本本土への侵攻という国家的危機に備え、九州の政治・外交の拠点である大宰府を防衛する目的。
2. 租・庸・調などの重い税負担に苦しんだ農民たちの反乱を鎮圧し、大宰府の役人が地方を監視する拠点とする目的。
3. 朝鮮半島への再出兵を計画するための軍事訓練施設として、大陸に近い九州北部の山岳地帯に兵力を集結させる目的。
4. 仏教による国家の鎮護を目的として、大宰府を望む山の上に広大な寺院や仏塔を建設し、外敵を退散させる祈禱を行う目的。

問4 飛鳥文化を象徴する法隆寺に関する記述として、歴史的背景を含めて説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2024年 三重公立入試 類似）

1. 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。
2. 聖武天皇が国ごとに建立を命じた国分寺の総本山として、国家の保護を受けて発展した。
3. 奥州藤原氏によって東北地方に建てられ、浄土信仰に基づく金色の建築様式が特徴である。
4. 最澄が比叡山に開いた天台宗の拠点であり、平安時代以降の仏教の発展に大きく寄与した。

問5 大化の改新の中心人物である中大兄皇子が、天智天皇として即位した後に行った、律令国家の形成に向けた取り組みの説明として最も適切なものを次から選びなさい。（2022年 徳島公立入試 類似）

1. 都を近江大津宮へと移し、日本で最初の全国的な戸籍とされる庚午年籍を作成した。
2. 冠位十二階や十七条の憲法を制定し、天皇中心の政治の仕組みを整えた。
3. 仏教の力によって国を守るため、全国に国分寺・国分尼寺を建て、大仏を造立した。
4. 大規模な内乱である壬申の乱に勝利した後、強力な専制政治を行い飛鳥浄御原令を編纂した。

問6 古代の日本が、朝鮮半島の百済と緊密な外交関係を維持していた歴史的な背景や影響について、適切に説明しているものはどれですか。（2018年 岐阜公立入試 類似）

1. 百済が大和政権と連携して高句麗などに対抗する中で、日本に仏教や儒教が伝わった。
2. 百済が唐と結んで朝鮮半島を統一したため、日本は律令制度を導入した。
3. 百済が大和政権を軍事的に支配し、高句麗への進出拠点として利用した。
4. 百済からの亡命者が新羅と協力したことで、日本に漢字が初めて伝わった。

問7 飛鳥時代、聖徳太子の命を受けて中国（隋）へ渡り、当時の進んだ制度や文化を吸収しようとした人物は誰か。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 小野妹子 2. 鑑真 3. 阿倍仲麻呂 4. 最澄

問8 7世紀前半、聖徳太子（厩戸王）らが中心となって奈良盆地の南部で栄えた、日本で最初となる本格的な仏教文化について、その特色を説明したものを次の中から選びなさい。（2022年 奈良公立入試 類似）

1. 中国や朝鮮半島を経由し、インドや西アジアの影響も受けた国際色豊かな文化である。
2. 遣唐使が伝えた唐の文化に、力強く健康的な武士の気風が加わった文化である。
3. 平安時代に、日本の風土や生活に合わせた優雅で洗練された貴族中心の文化である。
4. 聖武天皇の時代に、仏教の力によって国を安定させようとして全国に広がった文化である。

問9 663年に朝鮮半島で行われた「白村江の戦い」において、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗れた後の出来事として、歴史的背景に合致する説明はどれですか。（2017年 沖縄公立入試 類似）

1. 唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した
2. 大陸の影響を拒絶するため、遣唐使の派遣を完全に停止し、国風文化を育てる政策に転換した
3. 天皇中心の政治を諦め、有力豪族である蘇我氏に全ての政治権力を委ねる体制を整えた
4. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子が政治の表舞台から退き、大王による豪族連合政治が復活した

答え合わせ・解説

問1	答え 3 唐	618年に隋を倒して大陸に成立した唐は、律令制度を整えて強大な国家となり、周辺諸国へ軍事的な圧力を強めました。この唐の出現は東アジアの国際情勢を大きく変え、朝鮮半島の動乱や、日本の国家体制の整備（大化の改新や律令国家の形成）に決定的な影響を与えることとなりました。
問2	答え 1 白村江の戦い	663年に朝鮮半島の白村江で行われた戦いです。当時、日本と親交の深かった百済が唐と新羅によって滅ぼされたため、その再興を支援するために出兵しましたが、圧倒的な軍事力を誇る唐・新羅の連合軍に敗北しました。この敗戦を機に、日本は大陸からの侵攻に備えた国内防衛と、中央集権的な国家体制の構築を急ぐこととなります。
問3	答え 1 唐や新羅による日本本土への侵攻という国家的危機に備え、九州の政治・外交の拠点である大宰府を防衛する目的。	白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗れた倭（日本）は、強大な勢力が海を越えて攻めてくることを非常に恐れました。そのため、天智天皇（中大兄皇子）は九州北部の防衛を急ぎ、大宰府の北側に水城（みづき）という堤防を築き、周辺の山々には大野城や基肄城（きいじょう）といった朝鮮式山城を築かせました。これは、対外的な緊張感が高まったことで、国内の政治体制をより一層中央集権化（律令国家への移行）させる大きな動機の一つとなりました。
問4	答え 1 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。	法隆寺は7世紀初め、聖徳太子（厩戸皇子）の指導のもとで建立され、日本における初期の仏教興隆を象徴する存在です。他の選択肢は、東大寺（奈良時代・聖武天皇）、中尊寺（平安末期・藤原氏）、延暦寺（平安初期・最澄）に関する説明であり、時代背景や建立の主体が異なります。
問5	答え 1 都を近江大津宮へと移し、日本で最初の全国的な戸籍とされる庚午年籍を作成した。	中大兄皇子（天智天皇）は、白村江の戦いでの敗戦後、唐や新羅の侵攻に備えた国防の強化と並行して、国内の統治体制を整えました。近江大津宮への遷都や庚午年籍の作成は、中央集権的な律令国家を建設するための重要なステップとなりました。他の選択肢は、それぞれ聖徳太子（冠位十二階）、聖武天皇（大仏造立）、天武天皇（壬申の乱）の内容です。
問6	答え 1 百済が大和政権と連携して高句麗などに対抗する中で、日本に仏教や儒教が伝わった。	百済は大和政権にとって、朝鮮半島の高度な文化や技術を取り入れる重要な窓口でした。百済側も、軍事的に強大な高句麗や近隣の新羅に対抗するため、日本との友好関係を重視しました。この互恵的な関係によって、仏教伝播をはじめとする大陸文化の流入が促進されました。
問7	答え 1 小野妹子	聖徳太子は、中国の進んだ制度や仏教文化を直接学ぶことで、天皇を中心とした国づくりを進めることを目指しました。そのために派遣されたのが遣隋使であり、小野妹子はその代表的な人物です。これにより、日本は中国との対等な外交関係を模索しつつ、律令国家の礎となる知識を得ることができました。
問8	答え 1 中国や朝鮮半島を経由し、インドや西アジアの影響も受けた国際色豊かな文化である。	この時期の文化は、大陸との活発な交流により、シルクロードを通じて遠く西アジアやインドの意匠が日本に伝わったことが大きな特徴です。例えば、法隆寺の建築様式などには、ギリシャに見られる柱のふくらみ（エンタシス）の影響があるという説もあり、当時の国際的な広がりを示しています。
問9	答え 1 唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した	白村江の戦いでの敗北は日本にとって大きな危機であり、中大兄皇子（後の天智天皇）は九州の大宰府周辺に防御用の堤防である水城や朝鮮式山城を築きました。この国防の必要性が、国家の権限を中央に集中させる律令制整備の大きな要因となりました。